

E-2 多雪地帯における農家住宅内温・湿度の実態  
調査(第2報)  
—夏季—

新潟大教育 ○大島 愛子  
新潟県生活改 清水 信子

1. 第1報では新潟県における豪雪地帯(平均積雪深300~350cm)の東頸城郡牧村(山村)と北魚沼郡堀之内町(平場)の二カ所を選び、対象家屋は15軒とし、この中にかや葺・瓦葺・トタン葺およびスレート瓦葺(壁体に新建材を使用した新築家屋)を含ませた。その結果、気温はかや葺は低く、新建材使用の家は高かった。湿度はかや葺・新建材使用家屋は他に比べて高かった。そこで今回は対象家屋をかや葺と新建材使用家屋のみにしより詳細に実態を把握しようとした。

2. 調査地は新潟県における豪雪地帯に属する南魚沼郡六日町を選んだ。対象家屋はかや葺2軒(1軒は土座)、セメント瓦葺1軒とした。測定方法は床上150cmに自記温湿度記録計を設置し、経時変化をみると同時に、屋根裏面より階下床まで垂直に温・湿度分布をみた。別に戸外の百葉箱に自記温湿度記録計を設置し、室内との関係をみた。

3. 結果は前報のごとく、気温はかや葺家屋の方が低かった。湿度は屋根裏において、スレート瓦葺の方が著しく高かった。